

C'est très bon! Vol.125

Boulangerie
C'est TRÈS BON

～おいしいパンの通信～

2014.8.01

Kaori Onishi

フランスの旅③

フランスの製粉会社が雇用してくれビザを申請してくれということが決まっても、ほんとうに就労ビザがとれるのか私にはわかりませんでした。今を振り返ってポカカー選手を支援する苦勞すると言われている時だからです。しかし、申請してくれたフランスの会社も予想外だった。半年が3ヶ月から半年は取得にわかると言われていたものが、1ヶ月もかからず労働局の許可が降り、フランスの就労ビザを手にすることができたのです。その時の気持ちはもう感無量でした。まさかこの日が来るとは想像できませんでした。フランスで生活し働きたいていの奥底で悩まされ続けていました。日本に働いていながら、たまたま人が助けて下さることでフランスのビザがとれるなんて...常識では考えにくいことです。

今、見えないもの大切さを感じています。目の前の自分にこの損得ではなく、表面上はわかりにくいその物の本質という...その時すでに物事を左右するのではなく、後々大きく影響したりするもの。人との縁とか、自分の心の奥底に感じるこれ大切だなあと感じるものとか、人として正しいこととか...ちよとくまと言わねえせんが、人は一人で生きているのではなく、周囲のたまたまの人との縁の中で支え合い助けあって生きているのだと思います。普段はあまり意識しないことですが、今回42年向き生きてきた生活の拠点であった日本を離れろこになった今、出会ったたまたまの人と共に関わりを持ちながら生きてきたのが、その人達からの支えとなっていたのが、その重みと、そのことの感謝をおかしています。

昔と違って今の若い人は自分の損得計算で動いているのではないかと感じることもあります。でも、大切なことは目に見えないものなのです。はきりば...でも、それが後々自分を大きく助けてくれます。自分の力でちよとくまです。どう大きく羽たけろは人との縁をどう育んできたのかによります。

決断する 自分に何が満たされて居たのか、今の場所を捨て、せめて外国で働く。できる限り可能性ある限り試してみようという一歩を踏み出す決断ができた3月に、9月に渡仏するこころの中で決めました。そして9月7日日本を去ります。自分の中で決断してこれれば(これだけ!と決めることができれば)道はあつと開けてゆくのだと思います。もしかしたら9月はすれたいすのこは...?とも思っていたが着々とやるべき準備を進めてゆき予定通り渡仏できそうです。自分の中で計画し、いつかに...とやること具体的に決めることができれば(それが難しいこととは思いますが、具体的に描くことができたためには、日々自分がどうしたいのかを考へることが必要だし、物事はイメージというものがあつ。その人によって早すぎても具体的に描くことも描けず、経験を積む時間というものが次のステップに上る上で必要だからです。)今は選択肢にある世の中です。たまたまこれだけ!という強い決心を固めることができていいのかもしれません。自由だからこそ生きにくい時代なのかもしれません。今の若い世代は青春時代が戦争中、食べることも生きることも大きな大きな生きる目標であり、苦しい中を生き抜いて今の時代をイッリ上げてくれたのだと思います。今はこんなに物があるから、食べたものを食べる。何不自由ない時代、たまには和食を食べてみるのもいいかもしれません。満足するたまたま疑問に思うことがあつ。物を大切にすること、食べたものに感謝して大切に頂くこと、もともと見直すべきだと感じることもあつ。昔の人がイッリ上げてくれたこの時代に生きろこを感謝して、人生を十分に生きるべきです。私は"フランスでパン屋をやる"という夢を描いた時、果たしてこの夢を實現するこころをこころ最終的にやりたこと、何かなと考へてみた。そして、今、それが明確に見えろこになりました。

僕の奥底に思っていることは、自分がやりたいことと生きるべき道は自分自身がよく知っていていい。前からずっとなぜか自分をわからなかった。フランス語にひかれ続けていた。毎年必ずフランスへ行くと決まっていた。10年以上続けてきた。人との出会いと大切にパンを作るこの仕事を通じて人をつながってきた。……それがこれから進もうとする自分の道につながっている気がした。

僕の中に感じていることは、やっぱり正しいのだから改めて思っています。あきらめなければ、必ず夢は実現する。どんな大変さにも思っていることをそれを受け入れ、共に歩むことで自分を磨くことができる。自分自身が着実に一歩ずつその道を進んでいく。若い人へ道を示したいのです。あなたが希望を示すことができる人になりたいです。それは、みあった生き方をしたい。これが「フランスでパンをやる」という大きな夢を通じてやりたいことです。日本のパン業界の若い人に文藝ではもちろん、フランスのパン業界において、女性職人の数は日本に比べてもきわめて数なく、パン職人という仕事も人気はありません。私はこの仕事に誇りを持って、この仕事に出会えたことにたいして感謝しています。フランスと日本との国を学んだパンを造る技術に、日本人として持っている感性、仕事への情熱、誠実さをフランスに伝えたい。フランスで表現したいと思っています。伝統あるフランスのパンがきちんと作られて毎日一定の品質を提供でき、かつそのパンには和の心が感じられる。……そのことを目指します。フランスの地方には地方特有のパンやお菓子があり、とてもおいしいものやめずらしいものがたくさんあります。でも、そのパン達にパリで出会ったことはない。世界中から観光客が集まる街です。フランスの地方の伝統あるパンを焼きたいと思っています。トピで書き続けたパン通信も、フランスではフランス語で書くことは4カ国語にして思っています。もちろん日本ではフランスからの情報を今まではパン通信や、ホームページの中の紹介のことで写真などで紹介したと思っています。正直な気持ち、あなたが店を離れ遠くに行くことへの心配はあります。でも、今が心はなっている長年芝居がはたすことの可能性を信じています。近くにいてあげることができなくても、身守りながらフォローしてあげ、私自身の後で彼女達を引っ張っていくつもりです。私の中の今の計画は、1年以内にフランスの店の運営の方、見直し製造を学ぶ、その中にパリで良い物件を探し、いかにして店をオープンさせるかを真剣に考えています。芝居経営をやめるのか、どこかの会社でFをやめるのか……13人の子供を育てながらの方法を探します。取組は真剣に考えてはいても、今までは「いつかそうしたい」と考えてきたことには物事、運はないので正直なところ、いつか実現したいと思っています。(いつか実現したい、様々な方面人物事は急展開していくからです。)考えすぎるのも、こじつけをためて決めず、決めるのもよくなるので、努力を精一杯したう、あなたは神様です。旅立ちまであと一月にせめて、今一番の気持ちで、周りの人達の感謝です。家族・親友・スタッフ・先輩方、今まで私を支えてくれた皆様、の存在をとても大切に感じています。普段はあなたがあたりすぎたと思っています。でも、15年ほどはあなたに……人達には囲まれてきて、フランスでまたこんな居心地……で3作りの大変さ……という思いは、なごらぬです。みんなの声を聞いて、気軽に旅立っていい気分です。大変責任と期待を背負ってくださる……でも、楽しく、一度きりの人生、精一杯歩んでみます！13人の子供に経験により大きくなった私が日本とフランスのかけ橋として、みなさんに通じて、できる限り提案して、いつか……なりたいと思っています。

あなたに送る下…… K.O.